

## MJIIT留学記 十週目 マレーシアにおける日本語の価値

2015年11月20日

マレーシアに来て10週目、今週は来月MJIITで企画されている日本語のドラマコンテストに参加するというクラスメイト達に助っ人を頼まれ、原稿の翻訳および発音練習を手伝っていた。MJIITは生徒の必須科目として日本語講義の履修、及び卒業要件として日本への3か月間のインターンを義務付けている他、このような催しも定期的に行われており、生徒の日本語への関心は高いように思われる。（ちなみに彼らの日本語の発音は非常にしっかりしており、これはマレー語と日本語の発音が似ているという事が関係しているのかもしれない。一方でイントネーションや漢字は彼らの鬼門のようだ。）しかしながら日本語への関心は彼らMJIITの生徒に限らず、若いマレーシア人の間でも高まっているように感じる。実際我が家でもハウスメイトから日本語を教えて欲しいと頼まれ、お互いに英語と日本語を教え合っている。

ここで私は疑問を持った。自分が留学している理由の一つは英語力を高めることであり、英語を学ぶ理由は国際言語としての重要性にある。では彼らにとっての日本語を学ぶ価値とは何なのだろうか。いずれ日本企業への就職を考えている者や、社会人になった後で日本企業と取引する際に有利だという考え方もあるが、これは日本語に限らずどの言語にも当てはまる。それ以外の日本語の特異性はどこにあるのだろうか。

マレーシアにおける日本語への関心の高まりの背景にはアニメや漫画といった日本のサブカルチャーの影響が大きい。漫画やアニメ、ゲームやコスプレはマレーシアでも寿司や富士山、温泉と並ぶ日本の代名詞として広がっており、実際私が日本人だと言うと寿司や富士山の話の後には日本の漫画やアニメ、ゲームやコスプレが話題になることが多い。彼らはONE PIECEやNARUTO、ドラゴンボールやBLEACH、仮面ライダーまで知っており、彼らから今の流行りの漫画やアニメを教えてもらう事もある。これらサブカルチャーがきっかけとなり彼らは日本語を学びたいと思うようだ。事実漫画やアニメをきっかけとして日本に興味を持ったという生徒は多い。

これらの事実から私は「日本語はサブカルチャーの為の国際言語として捉えられているのではないだろうか」と考えた。国際言語とはデジタル大辞泉によれば世界の各民族・各国の間で、広く共通に使われている言語とある。日本のサブカルチャーを知る、あるいは語るために日本語を学ぶ事は有用であり、少なくともそれらに興味を持つ人々の間で日本語は国際言語として成り立っていると言える。

結論として彼らが日本語を学ぶ理由は日本とのビジネスにおける有用性の他に日本語のサブカルチャー国際言語としての特異性にあると言え、同時に私はそこまでの影響力を日本のサブカルチャーが持っている事に改めて驚いた。これからも日本のサブカルチャーの規模は増大し、それに比例して日本語を学ぶ人々が益々増えていくだろう。小倉



写真は売店で見かけたピンバッジ。人気商品らしく袋買いしていくお客も見かけた。